

1 学校評価（自己評価）の分析と考察

（1）教員自己評価より

- ・各学部の各目標（10項目）について「よくできた」「できた」の合計がすべて85%を超え、非常に高い評価を得ている。また、6項目については95%を超えていることから、教員が各学部の目標に向けた教育活動を実施していることが分かる。

- ・各分掌部の各目標（15項目）について「よくできた」「できた」の合計がすべて80%を超え、5項目については95%を超えていることから、各分掌部が目標に向けて積極的に取り組んでいることが分かる。

- ・各学部の目標のうち2項目は「あまりできなかった」「できなかった」の合計が10%を超えている。これは指導体制上、直接的に教育・指導する機会がない教員がいるための結果と考えられる。

- ・各分掌部の目標のうち6項目については「あまりできなかった」「できなかった」の合計が10%を超えている。

教務部に関しては、児童生徒数の増加に伴い、特別教室の使用割り当て・時間割等に制約があり、各学部の要望通りの教育活動を実施できないことに課題を感じていると推測される。また、3観点を踏まえた評価規準の作成については必要性を理解しているものの、検討が不十分であるととらえていると推測される。

進路指導部に関しては、卒業学部や卒業学年以外の教員の意識の低さが要因と推測される。

自活・研究部に関しては、今年度が自立活動部と研究部が合併した初年度である。新しい取組として教員のための授業参観週間を設けたが、すべての教員が他学年の授業を見学するのは難しい状況であったと考えられる。しかしながら、新しい取組を行い、公開授業に向けて全教員が参画したことは高く評価したい。

校務運営に関しては、年齢・経験・教科・所属学部など多様で多数の教員が所属する本校において、限られた時間や場面で「対話を重ね、大人・子どもが共に安心できる安全な教育環境をめざす」ことは容易ではないと言える。しかし、支援部の「全児童生徒の情報を把握し、チームによる支援体制づくりを行う」ことは「よくできた」「できた」の合計が95%であることから、子どもを中心にした連携はできていると考えられる。

（2）保護者アンケートより

- ・各学部のすべての12項目において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が85%を超え、半数の6項目においては95%を超えていることから、保護者から高い信頼を得ていることが分かる。

- ・各分掌部のすべての12項目において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が80%を超え、7項目においては90%を超えており、おおむね本校の取組を理解及び評価してい

ただいていることが分かる。

・各学部の取組のうち2項目において、また、各分掌部の取組のうち3項目においては「どちらかといえばそう思わない」「思わない」「わからない」の合計が10%を超えていた。「わからない」のみで10%を超えている項目が2つあり、学校での取組について保護者に十分に伝えられていないと言える。学校からの一方的な情報提供にならないよう、保護者からの意見を踏まえながら、情報発信の充実を図る必要がある。

(3) 教員自己評価と保護者アンケートとの比較

・学校目標と保護者アンケートの内容が多少異なるため単純比較はできないが、おおむね保護者アンケートが教員自己評価より高い結果となっている。学校の取組に対する保護者の評価が伺える。

・ホームページなどの情報提供については、教員の「よくできた」「できた」の合計が94%であるのに対し、保護者の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が82%となっている。評価の差には、情報発信に関して保護者の学校へのさらなる期待の高さが示されており、これは自由記述のご意見からも伺える。

2 保護者アンケート自由記述について

総数43件の内容は以下の通りである。

(1) 学校行事

- ・創立記念日の休日をなくしてほしい。
- ・休日の授業参観を年に1回でよいので行ってほしい(父親に子どもの姿を見てほしいので)。
- ・コロナ前の図工展のような簡素化しない行事をしてほしいです。
- ・長期休み中の登校日を作してほしい。
- ・保護者向けのオープンスクールの日を設けてほしい(クラスごとなど)。

(2) 教育活動

- ・子供に伝えるときに否定的な言葉をよく耳にします。走らないとかではなく、歩くとか、正しい行動を教えてほしいのに…支援的には基本だと思うのですが。
- ・国数で使うイラストなど教材を分かりやすくリニューアルしてほしい。タブレットを活用した視覚的にわかりやすい授業をしてほしい。
- ・下校のバス停出発時間が早まっているのが気になる、その分、昼からの学校の授業の時間が短くなっているのではないかと心配。デイ送迎の兼ね合いもあると思うが、学校での時間はしっかり管理して欲しいです。
- ・支援学校は始業時間が遅く、近くに頼れる人がいない場合には、両親共にフルタイム勤務が困難な状況。地域の学校と同じくらいの時間から学校に行けるようにしてほしい。また、夏休み等の学校休業期間も訪デイでは学童と同じくらい長時間預かってもらえる施設は私の調べた限りでは見つからず、学童に行けないことには不満を感じる。
- ・帰りのバスに乗車する時間が早すぎる。授業時間ももっと長くして欲しい(月水金)。放課後等デイサービスありきの授業時間設定に感じる。

(3) 学校環境・設備

- ・校舎の老朽化や増設について不安があります。早急に改善していただきたい、いつになったら実現す

るのでしょうか。

- ・給食のアレルギー対応がもう少し柔軟に対応してもらえると助かります。
- ・給食指導する担任の先生方が給食を食べれないのはおかしい。給食と一緒に食べて欲しい。
- ・将来の自力通学に向けて、バス停までの距離をもっと短くして欲しい。自宅からバス停まで1kmもあると到底自力通学は難しいです。
- ・徒歩で通えるバス停の新設をしてほしい。

（４）情報提供・連絡手段

- ・連絡帳のデジタル化、お知らせのペーパーレス化など、教員・保護者の負担軽減のための DX を進めていただきたい。
- ・ブログの更新頻度を上げて欲しいです。
- ・ブログが長く更新されていない、学校での様子がわかるので楽しみにしています。
- ・学校のホームページを見れていないので今後時間がある時に見に行きたいと思います。
- ・楽メが導入されてから、学校への連絡がスムーズになり、登下校時のバスの運行状況が分かり、とても便利で助かっています。
- ・一番聞きたいことをうやむやにされているカンジがしますが、仕方ないと思い諦めています。
- ・年間行事予定表に在校生休業日を明記していただきたい。今配付されているものには明記がなく、仕事のスケジュールを組むのが難しい。
- ・前期の個別指導計画(各教科)の評価と合わせて、後期の個別指導計画も教えてほしい。学校以外で ST や OT を受けている生徒も多いと思うので、親と目標や課題の擦り合わせをしてほしい。
- ・いつも細かく連絡帳で学校での様子を伝えていただき、安心しています。

（５）保護者の感謝・肯定的な意見

- ・先生方にいつもお世話になり、子どもたちに寄り添った教育に感謝しております。(6)
- ・先生方に支えられ励まされ進路に関しても子供は前向きで性格も積極性が出てきたように感じます。日々の教育活動ありがとうございます。
- ・一つ一つですが、出来ることが増え成長を楽しみにしています。
- ・毎日楽しく登校させて頂く環境を作って頂きありがとうございます。個性を含めて全てを受け入れていただける場所で生活させて頂く中で日々子供の表情・感情表現が豊かになっております。今後とも宜しくお願い致します。
- ・子供は毎日登校できているので、それだけでありがたいです。行事等でも支援学校ならではの丁寧な準備や指導を感じます。
- ・細かなところまで見ていただいているので支援学校に入ってよかったと思っています。
- ・毎日、楽しく学校に行けています。学校での嬉しかったことなど帰宅後にたくさん話してくれます。先生方も愛情深く子どもに接していただいているのが、子供の話や様子からも伝わり感謝しております。
- ・子供の学校生活がスムーズに過ごせるために、先生たちのご支援ご指導、ありがとうございます。
- ・一人一人の特性をよく見ていると思います。
- ・担任の先生によると思います。今年は担任の先生がとても子供に合っており、成長が見られます。
- ・子供がいつも楽しそうに学校の話をしてくれ、よくしていただいているのが伝わってきます。
- ・子供の気持ちや意思を尊重して下さったり、可能な限り取り入れて下さったりして、親としてとてもありがたいです、子供の小さな頑張りや成長もその都度伝えてくださり、一緒に喜んでくださることがうれしいです。

（６）その他

- ・教員の皆さんの中で、母親が主に育児をしているという固定概念があるように感じる。共働き家庭が増える中で、教員の意識も変わってほしい。
- ・就学奨励金の手続き、振り込みが遅い。およその振り込み日が分かれば良いと思う。

3 学校関係者評価

第2回学校評議員会（令和7年2月28日開催）において、学校評議員の方々からいただいた助言などは次の通りである。

- ・今年度の教員評価も保護者評価も全体に高く、特に保護者の評価が高く昨年のような指導の仕方についての不満などが少ないと感じました。それだけ、子どもに寄り添った丁寧な指導が評価されているのだと思います。保護者の自由意見の中に「個性を含めて全て受け入れていただける」「一人一人の特性をよく見ている」「楽しそうに学校の話をしてくれる」といった声が寄せられていることから伺えます。
- ・「共働きが増え、母親が主に育児を担うという意識も変わってほしい」という意見は、今の社会の変化や家庭の変化を理解しないといけない課題だと思いました。また、父親の参観などのニーズにも積極的に応える必要があると思いました。
- ・保護者アンケートの回収率が20%アップし、昨年より改善されたことは良かったです。保護者の学校への熱い期待や思いが感じられました。寄せられた意見を真摯に受け止めて、保護者と連携して今後の教育活動を進めていってほしい。
- ・共働き世帯が増加する中、始業時間に関する意見は難しい問題だと感じました。これは学校だけでなく、より広い視点で考えるべき課題だと感じます。
- ・保護者の評価が高いのは、学校の取組が間違っていない裏付けでもあると思います。
- ・保護者の自由記載も多く、保護者が積極的に参加されているのが感じられます。
- ・学校と保護者が協力し、学校運営を進められていると評価しています。
- ・自己評価、保護者評価ともに高く納得のいく内容であった。教職員と保護者の信頼関係の構築を高める一つの方策として、保護者の自由記述意見を貴重な意見ととらえ、学校としての回答を一つずつ作成し、方向性を示すことをしてみてもどうか。
- ・ICTの活用が教育現場においても喫緊の課題であるが、教職員のITリテラシーの底上げを図るべく、少し詳しい方が講師となり、校内メール配信等を行い、IT知識をインプットすることを習慣化してはどうか。

4 今年度のまとめと今後の取組

今年度、校長の学校経営方針に基づき、学校自己評価目標を6項目策定した。また、その目標を達成するために、各学部及び各分掌部において目標や具体的な取組、評価指標などの設定を依頼した。各部長を中心に教員たちが学校経営方針に理解を深め、それぞれの役割に応じ、業務を遂行する姿勢が見られた。

第4期ひょうご教育創造プランがスタートした今年度、教育DXの実現に向けた教育の情報化が推進され、本校でも教員に一人一台タブレット端末が配付された。質の高い学びを実現する教育環境の整備や充実に向けて、業務環境が変化しているが、教員のスキルが追いついていないのが現状である。教員研修の充実を図るだけでなく、日常的なICTの活用を通してスキル

を高め、ICT を活用した授業や教育支援の個別最適化、校務の効率化への効果を検証したい。

保護者アンケートの結果、高評価が大半を占め、学校への信頼感が伺える。内容については、直感的に回答できる項目に改善した。回答率が昨年度より約 20%上がったことについて、保護者のご協力に深く感謝したい。回答率上昇の要因としては、一斉メールに Web へのリンク先を添付したことでアクセスしやすかったことや、保護者が Web や QR コードでの回答に慣れたこと等が推測できる。しかし本質は学校経営への関心である。今後も本校教職員の教育活動への熱意が保護者の皆様に伝わり、学校の取組への関心が高まるよう P T A とも連携しながら取り組んでいきたいと考える。

5 次年度以降の取組について

今年度高評価であった項目においても、さらなる改善を目指し次年度の経営に反映させていきたい。

昨年度に引き続き、情報発信・情報共有については多少課題が残る。情報を伝える側は「情報量の多さ」ではなく「相手に伝わっているか」に着目すること、また、情報を受け取る側は「情報提供を待つ」のではなく「必要な情報を自ら取りに行く」姿勢も求められるだろう。双方が情報の受発信のバランスを意識し、ICT 機器を利活用しながら、双方向の対話の充実を図りたい。

昨年度同様、今年度も進路指導について、高等部の保護者のみに回答をお願いした。しかし、次年度からは全学部の保護者にアンケートを実施することを検討している。キャリア教育は小学部段階からスタートしていることを鑑み、今年度進路指導部は小学部及び中学部の保護者向けの進路研修会を実施したり、入学説明会で進路指導について説明を行ったりした。今後は学校評価アンケートを通じて、保護者のご意見を反映し、卒業後の進路指導に関する情報提供の更なる充実を図りたい。

自由記述では保護者から温かい励ましの言葉や貴重なご意見をいただいた。子どもたちの成長する姿とともに保護者の皆様のお言葉は、教職員にとって大きな活力である。一方で学校への要望もいただいた。働き方改革の推進による勤務時間や勤務形態の制限もあるが、学校と保護者が相互理解を図りながら、効果的な教育活動を展開したいと考える。